

国/県	種別	名称	よみ	員数	所在地	指定等年月日	構造形式	法量	解説	写真	備考
国	重要有形民俗文化財	榊床・八幡山村生活用具及び民家 (生活に関するもの247点) 家具 28点 燈火用具 25点 調理用具 64点 飲食用具 62点 服装品 68点 (生産に関するもの185点) 農具 49点 きこり用具 12点 狩猟用具 3点 紡織用具 77点 畜産用具 35点 その他の生産用具 9点 (その他のもの47点) 保健衛生用具 14点 交易用具 9点 その他の用具 10点 民家 1棟	たるとこやわたさんそんせいか つよくおよびみんか	479点、1棟	山県郡北広島町西八幡原	昭34.5.6 昭40.6.9 (追加指定、名称変更)			ダム建設により湖底に没した榊床地域で昭和32年(1957)に収集された民具を中心に、本郷八幡の民具を補足した、総数479点の生活用具で、東北山地の生活の特色を示す資料である。このため収蔵庫を建てるとともに民家を移築して町立民俗博物館としている。 ミヤマカズマで楳んた裏やばやし、雪中用のはきものは寒冷な高原の環境を示している。また、銅鍮に織た上巻、ワラの根から澱粉をしぼったふね、トチの実のからをつぶしたヘシなどは食生活を示している。 紡織の道具は、糸をひき、はたを織りかけてあるで、用法が理解できる。馬のくつ、伯楽の施療したヤガネは、農閑期にたたらに砂鉄を選んだ当時をしのはせる。 民家は、弘の水溜池から移築したもので、江戸時代の天明年間(1781～1789)頃の建築と言われる。中世の書院造りの中門にその発生をみて、雪國の農家建築として発達した中門造り(曲り屋)、明治初年まで北部地域に普遍的であったが、ほとんどなくなっている。中門の部分は、牛馬をつなぐ駄厩、木小屋、便所などに使われ、土壁を使わず縦はめ板で構成し日本の古い民家に共通するものである。		連絡先:北広島町教育委員会 (0826-72-2111)、芸北民俗博物館(0826-37-0046) ※冬季休館 画像提供:北広島町教育委員会
国	重要有形民俗文化財	基北の染織用具および草木染めコレクション 染織用具111点、草木染め68点	げいほくのせんしんしょうくおよ びきさぞめこくれしん	179点	山県郡北広島町有田	昭35.6.9			このコレクションは、染織用具111点、草木染め68点からなる。前者は、この地方で行われた麻、もめん、絹などの紡織および染色に関する資料で、各工程の用具が系統だてて収集されている。後者は手織のもめんを主とし、ふんどし、ふるしき、着物など日常使用される衣類から、神社の織に至るまで、地方在来の諸種の植物染料を使って紙型染め、板染めの手法をほとんどこしたものである。その図柄がすぐれているのは、幕末この地に輩出した南画家和田青華一派が下絵をかけたものといわれ、染色技術も優秀である。		関連施設:基北民俗芸能保存伝承館(090-5812-9088)
国	重要有形民俗文化財	川東のはやし田用具 楽器7点、服装品51点、農具72点、運搬具18点、炊食器159点、燈火具6点	かわひがしのはやしだようぐ	313点	山県郡北広島町川東	昭38.5.15			田植の際に、特定の田において雑子を奏し、それに合わせて音を補えることは、古くはかり広く行われたもので、これを「はやし田」「花田植」「木鼓田」と呼んでいた。現在では中国山地にこの習俗がかなり遺存に残っている。北広島町川東地区はその一つ中心であり、古い様式の用具をよ保存している。このはやし田用具は、この地区に伝承されてきたはやし田、農耕に関する用具を集大成したもので、農耕技術及び儀礼の一典型を示すものとして貴重である。		連絡先:北広島町教育委員会 (0826-72-2111)
国	重要有形民俗文化財	豊松の信仰用具 祭祀用具230点、祈禱用具42点、神楽用具113点、燈火用具34点、直会用具582点、大田植用具7点	とよまつのしんこうようぐ	881点	神石郡神石高原町	昭43.5.31			これらの用具は信仰に用いられるもので、その形様、製作技法、用法において、基礎的生活の地域的特色を示す典型的なものである。特に講登拝に関する用具は、現に村内に山上講、石槌講、大仙講など13の講講集団が存在しており、わが国講集団成立過程の研究資料として貴重である。祈禱用具も修験山伏に密着したものである。その他神楽用具なども、神信仰研究上の好資料である。いずれにしても、備中、備後に於ける民間信仰の推移を知るのに大変貴重な資料である。		連絡先:神石高原町教育委員会 画像提供:神石高原町教育委員会
国	重要有形民俗文化財	湯ノ山神明旧湯治場	ゆのやまみょうじんきゅうとうじ ば	1件	広島市佐伯区湯来町和田	昭49.2.18			湯ノ山には古くから鉱泉の湧出があり、寛延年間(1748～1750)以来藩主の入湯もあり、湯の山明神の靈験の湯として知られていた。現在は旧湯場の崖下に共同浴場を新設して使用している。その上段に旧来の湯坪があり、岩屋を掘り出した素朴なもので、湯屋の階層に入湯者の霊量の数々が残されているなど、当時の姿をよく伝えて保存されており医療とそれにまつわる信仰の様相をよく伝えている。		
国	重要有形民俗文化財	はきものコレクション 下駄類800点、草履類567点、草鞋類267点、藁沓類213点、沓類145点、足袋類77点、足桶8点、かんじき類68点、踏機類11点、スキー・スケート類39点、竹馬・缶下駄類15点、その他(引札・看板)36点	はきものこくれしん	2,266点	福山市松永町	昭60.4.19			はきものコレクションは約30年間の歳月をかけて、広く全国各地から収集されたもので、形態を主軸に用途を加味して分類し、関係の製作用具・交易用具等を加えて体系的にまとめたものである。コレクションのうちでも特に充実しているのは、はな(鼻)緒はきものとして下駄・草履類、草鞋(わらじ)類と被甲(はきもの)としての藁沓(わらづつ)類、沓(つ)類、足袋(たび)類である。はな緒はきものうち、下駄類には、一木製の各種の下駄をはじめ、雪國で使用されてきた雪下駄、田の代播(しろかき)、肥料の踏み込み機などに使われてきた田下駄、また草履類には多用な足半(あしなか)草履を含む。被甲のはきものとしては、藁沓類や、木製、絹糸編みなどの和沓、明治以降に普及を見た洋靴、また、足袋類には紐付きの足袋、コバ掛け足袋、置(は)き足袋、底のない甲掛(こが)り類が収集されている。その他、水中で履く(足桶類、雪氷上の歩行用につけるかんじき類、積雪を踏むのに使う踏機類など各地で使用されてきたものが含まれており、全体的に概観できる資料として貴重である。		関連施設:福山市松永はきもの資料館(084-934-6644)
国	重要有形民俗文化財	江の川流域の漁撈用具 漁撈用具 1,226点 附 漁場関係資料 27点	ごうのかわりゅういぎのきょう ようぐ	1,226点	三次市小田幸町 広島県立歴史民俗資料館	平11.12.21			江の川は、広島県山県郡芸北町阿佐山を水源とし、島根県江津市で日本海に注ぐ中国地方最大の河川である。 この資料は、江の川の全流域を対象に収集された漁撈用具のコレクションで、広島県立歴史民俗資料館が昭和54年(1979)の開館以来、漁撈民俗調査を継続的に実施するなかで収集した1,800点余りに及び、資料の中から精査し体系化したものである。 収集資料は、網漁用具・釣漁用具・突釣(つぎばり)、漁用具・船具(かんせい)漁用具・鵜飼漁用具・舟及び関係用具・運搬・保存用具・加工・販売用具・漁具製作・修理用具及び附して漁業鑑札類など漁場関係資料である。 本資料は、江の川流域で川漁を行った人々々が使用した漁撈用具からなり、この地域の河川漁撈の実態や漁撈文化を理解するうえで貴重な資料である。		関連施設:広島県立歴史民俗資料館(0824-66-2881)